

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 1 号

令和5年 7月 5日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 宮原 美由紀

【提案日時】

令和5年6月7日（水）

提案 栗田 一輝先生（本町小）

【会 場】

平沼小学校

司会 田澤 哲哉先生（常盤台小）

記録 宮原 美由紀先生（白幡小）

【提案】

単元名「寒い地域の人々の暮らし～天然の冷蔵庫を生かした雪室推進プロジェクト～」

【提案者より】

新潟県上越市の雪室プロジェクトでの取り組みを具体的事例として取り上げ、寒い地域の人々が気候に
適応しながら生活を送っていることについて学びを深めていく単元。

視点① 既習や生活経験を生かした社会的事象との出会い

学区の雪の時の様子

比較

上越市の雪の様子

・写真で様子を比較しながら気づきをあげる→問いを生み出していく

「単元を見通す学習問題」が成立

・単元の中でも

横浜市の様子と上越市の様子を比較しながら考える発言が多く見られた。
⇒心理的距離を縮めることつながっていたと考えることができる。

視点② 複数の学習問題を想定したことで、子どもの思考に合った学習問題が成立

いくつかの想定のもと、前時の授業を進めた。⇒子どもたちからの言葉から「本気の学習問題」が成立
本時の中で、学んだことを基に、友達同士で関連付けて話す姿が見られた。

【グループ協議】 4つのグループに分かれて、グループ協議を行う。

協議内容

- ・ふり返りの中で、子ども自身が成長を実感するためには、どうすればよいか。
- ・社会的事象の意味等に迫るためには、どのような教師の出がるとよかったか。

実践者が示したふり返りの視点

- ① 学習問題について
- ② 自分の中での変化

成長を実感することができるふり返り

- ・1時間の中での自分の変化という捉えはなかなか難しい。
- ・節目（学習調整の場面・単元の終末など）にふり返ることで
変化を捉えることができるのでは。

・ふり返りの視点として示したことで、子どもたちは何をふり返るかが分かりやすい。

・視点としては、残しておいて、自分のタイミングのどこかでふり返ようにするとよいのかもしれない。

社会的事象の意味等に迫るための教師の出

- ・授業記録を読んでいると、序盤に「上越市ならではの」という発言がある。そこからの問い返しをしたいけれど、序盤なのでもう少し言いたいのではと思うとなかなか出ることが難しい。
- ・子どもたちの発言には、上越市の気候や雪のことなどに触れている発言が多くみられる。
⇒子どもたちの中で、「適応している」という捉えができていないか。単元の中での学習が生きている。そこを整理したり、問い返したりすることで全体化を図ることにつながっていく。

【担当校長先生より】

平沼小学校 寺岡 徹校長先生

<単元づくり・授業づくりについて>

- ・「子どものこと」「地域のこと」「学校のこと」を知ることは社会の授業を作る上で大切にしたいこと。
- ・ある程度、子どものことを知っている子どもの学び方に対する予想が立ってくる。
○年の時に△△の学習をしている子どもたちだから、この単元やこの事例ということを大切にする。
⇒子どもたちが学習してきた内容を考えてから単元を作る。

<ふり返りについて>

- ・「分かったこと」「分からなかったこと」「もっと知りたいこと」をふり返る。
⇒時間がたってから成長を実感できるようになる。
- ・ふり返りは積み重ねていくことが大切。

瀬谷さくら小学校 場家 誠校長先生

<ふり返りについて>

- ・5学年部会のふり返りについて
「大切」「明確」「提示」という言葉が出てくる。
⇒今後は「提示」しなくてもよくなるのが5年の理想。

<問うことについて>

- ・社会の学習で「問う力」は大切
⇒「だれに」(学習対象・他者・自分自身)、「何を」(理由・方法・意味)問うのか。
⇒最初から意味につなげることは難しい。子どもたちの中でしっかりと「問う」力を養っていくこと。
問いの流れを作ることが大事。

文責 宮原 美由紀 (白幡小学校)
発 杉内 翔太 (川和小学校)